

播磨圏域連携中枢都市圏に係る主な取組

【圏域全体の経済成長のけん引】

○放射光施設活用促進事業及びスーパーコンピュータ活用促進事業

- ・放射光施設活用促進事業については、6月に放射光分析実習、11月にナノ・マイクロ切削と放射光微細加工実習を行いました。
- ・スーパーコンピュータ活用促進事業については、11月にスーパーコンピュータ活用実習を行いました。
- ・3月にはイノベーションセミナーを開催する予定です。



【分析実習の様子】



【スーパーコンピュータ利用実習の様子】



【微細加工実習の様子】

○企業誘致の推進

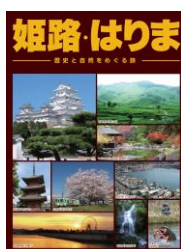
- ・圏域への企業誘致を促進し、産業振興及び雇用確保を図るため、各市町の地域経済、工場適地等、企業誘致環境のポテンシャルに関する調査を行うとともに、広域企業誘致パンフレットの作成（3月配布予定）などを行っています。



【企業立地パンフレットイメージ】

○播磨圏域広域観光事業

- ・各市町が広域的に連携し、様々な観光資源を積極的に活用することにより、観光客等交流人口の増加による圏域全体の活性化を図るため、広域観光ルートの設定及びプロモーションを実施しています。



【広域観光パンフレット】

・圏域の地域資源や魅力を伝えるとともに、自ら住む地域への愛着を深め、圏域外へ地域の魅力を発信できる人材の育成を図るため、写真やイラスト等を使った播磨圏域に関する冊子を作製（3月発行予定）しています。



【はりま読本イメージ】

○播磨地場産品販路拡大事業（まるごとにつぼん）

・播磨圏域が取組む「はりま地域ブランド」確立を推進するため、首都圏を中心とした情報発信拠点として、東京浅草にアンテナショップを初出展し、播磨圏域の特産品の展示・販売、観光PR、移住・定住PR、ふるさと納税PR等を行っています。



【アンテナショップ】

【イベントの様子】

・圏域全体の農水産業の活性化や次世代の人材育成を図るため、圏域内にある日本調理製菓専門学校・日本栄養専門学校を中心として、農業高等学校、農水産物生産者、行政等が連携し、地元産の農水産物を活用したメニューの開発やPRイベントを行っています。



【東京での試食会（1月30、31日）の様子】

【播磨の食材を使ったメニュー】

【圏域全体の生活関連機能サービスの向上】

○社会施設等相互利用促進事業及び図書館相互利用促進事業

- ・圏域住民の社会教育活動を支援するとともに、その発展に寄与するため、博物館等の利用について連携市町在住の幼児・児童・生徒を対象に利用条件の統一を行いました（7月にどんぐりカードを発行）。
- ・連携市町が設置する図書館において、相互の図書の貸出等のサービスを11月から開始しました。



【どんぐりカード】



【図書館相互利用広報チラシ】

○移住・定住促進事業

- ・移住・定住者の様々なニーズ等に対応し、地域の特長を生かした移住・定住対策に取り組むため、連携市町の移住・定住促進に係る情報を集約したガイドブックの作成（3月配布予定）に取り組んでいます。



【移住・定住ガイドブックイメージ】